

W-note

授業構想シート
授業構想チェックシート
Rシート

実施時期 **令和 4年 10月12日 ~ 11月10日** 学部 **小学部**

教科 **国語** グループ **D** 指導領域 **聞くこと・話すこと**

実態 実態について
 個別の教育支援計画を確認 (その子どもに必要なこと?) 個別の指導計画で領域を確認
 知識を段階化した一覧を実態表として使用し、実態を把握
 「できない」ことは問題でなく、つまずきの原因が重要
 (1) この題材で達成が可能? 【可能性】 (2) 現在の生活で必要は? 【必要性】
 (3) 将来の豊かな生活につながる価値は? 【価値性】

対象児：L
【知識及び技能】
 ・身近な建物や物、場所の名称を言う
 ・物や場所の名称を問うと、イラストや実物を指さす
【思考力・判断力・表現力等】
 ・教師が「制服はどこにあるの」と問うと、「更衣室」と言う
 ・教師が「うめ組の体温計はどこにあるの」と問うと、うめ組の教室の方向を指さし、「そこ」と言う
 ・教師が「～さんのふでばこはどこにあるの」と問うと、「うめ組」と言う
 ・和室の机の上に宝物があり、宝物の位置を伝える時、「つくえ」と言う
 ・和室の机の上に宝物があり、宝物の位置を伝える時、ヒントボードに〈つくえ〉〈上〉〈和室〉の順に場所カードを貼り、「つくえ、うえ、わしつ」と言う

学習指導要領の扱う段階の目標と内容
 小学部3段階
【知識及び技能】
 イ(ア)：物事の始めと終わりなど、情報と情報との関係について理解すること。
【思考力・判断力・表現力等】
 A 聞くこと・話すことア：経験したことを思い浮かべ、伝えたいことを考えること。
【学びに向かう力、人間性等】
 目標ウ：言葉がもつよさを感じるとともに、図書に親しみ、思いや考えを伝えたり受け止めたりしようとする態度を養う。

【どうなっていきたいかを三つの柱で整理】

【何を学ぶ? (知識)】	【〇と判断できる発言や姿】	【大まかにどう段階化する? (詳細は題材計画で)】
・形や色、位置を表す言葉の意味や働き ・位置を具体的に伝えるための順序	・部屋や物の名前、位置を表す言葉を使って、宝物がある位置を話す ・「部屋→物→位置」のように、相手に伝わるように順序よく詳しく話す	・「部屋+物」→「部屋+形(色)+物」→「部屋+形(色)+物+位置」の順序で課題を提示する ・ヒントボードを使って話す言葉や順序を考える際、教師が宝物を隠しているイラストと場所カードを指し示す→教師が宝物を隠しているイラストを指し示す→教師が「部屋はどこかな」などと言葉をかける→教師が「どこかな」と言葉をかける→見守る、といった段階で支援を減らしていく
【どう学ぶ? (活動)】	【〇と判断できる発言や姿】	【大まかにどう段階化する? (詳細は題材計画で)】
・宝物や人の位置を伝える	・ボードに、【部屋】【物】【位置】の順に場所カードを貼り、その順序で話す	・徐々に似たような場所や物に加え、課題の難易度を上げる
【望む姿勢や姿は?】	【どう引き出す?】	
・友だちに宝物がある場所を言葉で伝えようとする ・友だちの問いに対して、言葉で答える ・「部屋+形(色)+物+位置」の順序で宝物がある場所を伝えることの定着	・宝物がある場所を伝える時に、その場所が見えない状況を設定することで、言葉を使うことの必要性を感じることができるようになる ・言葉が不明瞭な部分は、教師が復唱して友だちに伝えるとともに、言葉を使ったことを認める ・ヒントボードで話す順序を考える時(考えた後、話した後など)、「部屋→形(色)→物→位置」だとわかりやすく、「物→部屋→形(色)→位置」だとわかりにくいことを、意味づけて認める(友だちの意見なども伝える)	

【教材は?】 【教材名: 探索中! ~宝物を見つけよう~】

【仕組み】
 ①ホワイトボードに提示してある部屋のシートと宝箱を見た後、宝物がある場所を聞き手に伝える
 →話し手は宝物のありかを聞き手に話す
 ②聞き手は宝物を探す
 ③宝物を見つけることができたなら、話し手と聞き手はポイントシールをGETする

宝物カード
めくると、中身の有無がわかるようになっている

宝物は、
～の、
～の…

ふむふむ…

どこだ?

ここか?

【ポイントシール】シールはパズルのピースになっていて、全問クリアすると好きな物の写真が完成する

【全 9 時間をどう使う? (題材計画)】

【一次】1時間	【二次】6時間						【三次】2時間		
	10月12日	13日	18日	20日	24日	27日	11月1日	8日	10日
『探索中!』ゲームで、物の場所を、順序よく具体的に伝えることに課題をもつ	部屋+物	部屋+物 生活に近い場面で	部屋+形(色)+物+位置 生活に近い場面で	部屋+形(色)+物+位置 生活に近い場面で	部屋→形(色)物→位置の順序 生活に近い場面で	部屋→形(色)物→位置の順序 生活に近い場面で	部屋→形(色)物→位置の順序 生活に近い場面で	実際の場所など生活に近い場面で	
学人	友だちに宝物がある場所を言葉で伝えようとする 友だちの問いに対して、言葉で答える				☑「部屋→形(色)物→位置」の順序で宝物がある場所を伝えることの定着				

【めあて達成のための工夫は? (場面設定・教具・働きかけなど)】

【工夫点】	【意図(ポイント)】	【工夫点】	【意図(ポイント)】
話し立場のみではなく、聞く立場にもなるようにする。	友だちの話を聞く中でわかりやすかったことなどを発問し、部屋や物を表す言葉を使って順序よく話すための活動を増やしたり、相互評価したりできるようにする。	・ヒントボードと場所カード 【部屋】【物】 【位置】のカードを使って、話す言葉や聞いた言葉を整理する。	話す必要がある言葉や順序を考慮することができるようにする。聞き手の場面でも、同様にこのカードを用いることで、話した言葉や順序のよさを認める。
宝箱を隠すホワイトボードには、複数の部屋と様々な物を掲示する。宝箱も複数掲示する。	友だちに詳しく話したり、友だちの話をよく聞いたりする必要性を感じられるようにする。	★改善★ ・〈部屋シート〉〈物シート〉 児童自身で〈部屋シート〉→〈物シート〉→宝物カードの順で宝物を隠す活動を取り入れた。	自分で宝物を隠すことで、「部屋→物→位置」といった順序を考慮することができるように。

【1時間をどう展開する?】

学習活動	意図と働きかけ(主発問・みとめ・タイミングなど)	【板書・配置・教具など】教室の配置
本時の学習活動とめあてを知る	・前時の学習を振り返るために、前時のシートと宝物を提示する ・本時の学習活動とめあてがわかるように、それぞれのめあてを提示する	宝物を隠す 聞き手 話し手 教具: 場所カードとヒントボード
「探索中!」ゲームで、宝物がある場所を伝えるために、話す言葉や順序について考える	・話す時に必要なポイントを確認するために、ペアの友だちと、「探索中!」ゲームに取り組み、宝物がある場所がわかりやすかった点、わかりにくかった点を伝え合う時間を設ける	【改善】話す順序について考えられるようにするためには… ・〈部屋〉と〈物〉のシートの順に、自分で、ホワイトボードに〈宝物〉を隠す→宝物を隠した場所を伝える 〈部屋〉シート 〈物〉シート
宝物がある場所を、部屋や物、位置を表す言葉で伝えて、宝物を探す	・宝物がある場所を話したり、聞いたりして、自分たちで宝物を探そうことができるように様子を見守り、宝物が見つかった時は、よかった点を認める	
本時の学習を振り返り、次時の学習に見通しと期待を持つ	・本時の学習で学んだことを振り返ることができるよう、展開や発展での学習の様子を再現したり、友だちのよかったことについて問いかけたりする ・次時の話を聞いて、学習の期待がもてるようにする	

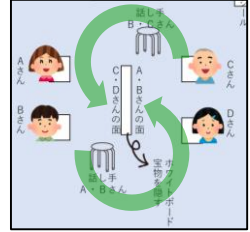
【評価】

開始時の姿(実態・課題)	指導・支援	結果
宝物がある場所を話す時… ・部屋や物の名前のみ話す ・「つくえ、うえ、わしつ」などと話す	・「部屋→形(色)物→位置」と話した時は、宝物がある場所がわかりやすかったことを認め、お部屋→形(色)物→位置の順で話すと伝わりやすいことを意味づける ・ヒントボードと場所カードで、話す内容を整理する(教師の支援: 指さし→言葉かけ→支援なし)→合わせて〈部屋〉〈物〉シートを使い、話す順番も整理する	・部屋→形(色)物→位置の順で、宝物がある場所を話すことができるようになった。

実践のポイント

ポイント① 教材と学習環境の工夫について

- ・何かを伝えることの意義や必要性(目的)を感じることができる
- ・日常の場面でも起こりうる活動内容
- ・友だち同士で役割をもって取り組める内容
→「宝物を見つける」という教材
- ・「具体的に話したから伝わった」と実感できるようにする
→複数の部屋や似たような物、宝箱もいくつかある…という中で友だちに伝える活動



- ・友だち同士で学習を深めたり、相互の評価をしたりするために→ペアでの活動

- ・宝物がある場所をイメージして話したり、聞いたりすることができるようにするために
→宝物の場所を伝える時は見えないように場面設定を変更

ポイント② 『ヒントボード』の活用について

- ・友だちの、「宝物はどこですか?」の問いに、「机」や「和室」と話す様子が見られた。
- ・よりわかりやすく友だちに伝えることができるように、『ヒントボード』を使い、どのように話せばよいかを考えることで、宝物がある場所の伝え方を理解できたと考える。また、友だちに伝わった時の認め場面や、伝わらなかった場面で、宝物がある場所と照らし合わせることで、何がよかったのか、何が足りなかったのかを確かめることができた。



ポイント③ 話す順序の学習について

- ・『ヒントボード』を使って、部屋や物の名前、位置を表す言葉を使うが、「机、上、和室」などと話す姿が見られた。
- ・部屋→具体的な位置の順で宝物がある場所をイメージして話することができるように、〈部屋〉〈物〉シートを使い、自分で宝物を隠す活動を取り入れた。



←〈部屋〉
〈物〉シートを使って、宝物を隠す様子



- ・話した内容が、伝わった時は、部屋→物→位置で話すとわかりやすいことを認め、「赤いソファ、上、和室」などと話した時は、シートを使って、話した内容を表現して確かめるようにした。

「リビング、四角いテーブル、上」○
「赤いソファ、上、和室」?? 宝物はどこ??

働きかけについて (HOW TO)

- ☑自ら考え、判断して行動する手助けをするためのもの
- ☑活動「開始時」「途中」「つまずき」「終了時」を想定
- ☑誘い、示範例示、助言、説明、問いかけ、盛り上げ、賞賛、励まし、認め、意味づけなどを行う
- ☑子どもに合わせた伝わりやすいことばや提示
- ☑抑揚や身振り、表情、子どもの好きなものなど工夫
- ☑つまずきに対して答えでなく段階的な働きかけ
- ☑課題遂行につながる効果的なことばかけ
- ☑何がよかったかわかるよう即時評価
- ☑よさや価値を伝えられる認め
- ☑働きかけを段階的に減らしていく工夫

① 10/12 欠なし	【うまくいかなかったこと】 ・話す場面で、答えとなる場所を指さす
【うまくいったこと】 ・仕組みを理解して、最後まで活動に取り組む	
【気づいたこと】 ・ルールを明確に(話す人は指さしをしないなど)	
主・対で深い学びの実現に向けた改善 ・友だち同士で行うことがよい	
② 10/13 欠 小6男子	【うまくいかなかったこと】 ・答えの宝箱を指さした
【うまくいかなかったこと】 ・課題が終わり、時間が余ってしまった ・教師が「はじめていいよ」と言うと、活動に取り掛かった	・宝物はどこにあるか問われた時に、「倉庫、部屋」などと伝えたり、教師を見たりしていた
【気づいたこと】 ・時間いっぱい取り組めるように、課題数を増やす ・どんなことを話せばよいか考えられるように、場所のカードやヒントボードを提示する	
主・対で深い学びの実現に向けた改善	
③ 10/18 欠なし	【うまくいかなかったこと】 ・宝物を探す時に、無作為に宝箱カードをめくって、宝物を探す
【うまくいったこと】 ・『ヒントボード』で、宝物がある場所について、部屋や物の名前を話す	・部屋や物の名前前で話すが、友だちから「わかりません」と言われる
・時間いっぱい学習に取り組む	
【気づいたこと】 ・言葉が不明瞭(側にいる教師にはわかる)で聞き手の友だちに伝わりにくい場合は、教師が支援(「～って言っているよ」)をする ・聞き手の時、選べる宝箱は1枚というルールを明確に提示する	
主・対で深い学びの実現に向けた改善	
④ 10/20 欠なし	【うまくいかなかったこと】 ・宝物が和室の机にある場合に、「机、和室」などと話す
【うまくいったこと】 ・自分で、ヒントボードに、部屋カードや場所カードを貼って話すようになる	・ペアの友だちは「和室の机にあります」と話す
【気づいたこと】 ・ヒントボードと場所カードを使って、「和室、机」の方が伝わりやすいことを確かめる ・友だちのよいところを認めて、聞き手の立場で押さえていく	
主・対で深い学びの実現に向けた改善 ・伝わった場面、間違えた場面で、友だちならどうするかを発問することで、友だちのよい話し方を知る→なぜよいのかを考える、どう話せばよいかを聞く(理由も含め)	

⑤ 10/24 欠なし	【うまくいかなかったこと】 ・「机、和室、上」などと話す
【うまくいったこと】 ・ヒントボードに、部屋、物、位置のカードを自分で貼って話す	・「机、和室、上」などと話す ・ヒントボードに「つくえ」「わしつ」「うえ」などの順に場所カードを貼る
【気づいたこと】 ・自分で宝物を隠す活動を取り入れると、話す順序に目が向くか ・順序よく話すことのよさ→できた場面できちんと押さえる、間違えた場面で気付くことができるように、考える場面を設定する	
主・対で深い学びの実現に向けた改善	
⑥ 10/27 欠なし	【うまくいったこと】 ・友だちの話聞く場面でも、ヒントボードに、部屋、物、位置の順にカードを貼る
【うまくいったこと】 ・物、部屋、位置の順にカードを取るが、ヒントボードには、部屋、物、位置の順に貼り、「和室、机、上」などと話す	
【気づいたこと】 ・順序よく伝えることの必要性→部屋の物の位置の順だと詳しい場所が分かるということをきちんと認める	
主・対で深い学びの実現に向けた改善	
⑦ 11/1 欠なし	・ヒントボードにも、支援なしで、部屋、物、位置の順に場所カードを貼って「寝室、黒い棚、上」などと話す
【うまくいったこと】 ・自分で〈部屋〉〈物〉のシートを選んでホワイトボードに貼って、宝物を隠す	
【気づいたこと】 ・隠す場所を自分で考える→頭の中がどう話せばよいか整理されるのでは?	
主・対で深い学びの実現に向けた改善	
⑧ 11/8 欠なし	【うまくいったこと】 ・実際の場所でやってみると、部屋(空間?)→物で話したり、「〇〇の近く」などと話す
【気づいたこと】	
主・対で深い学びの実現に向けた改善	
⑨ 11/10 欠	【うまくいかなかったこと】
【うまくいったこと】 ・評価	
【気づいたこと】	
主・対で深い学びの実現に向けた改善	

次回は評価へ

教材目標について	☑それぞれの子どもの目標を個別化する ☑授業の評価・改善ができるよう、題材の最後の姿(到達像)の具体化する ☑身につけたいことを焦点化する ☑前単元や題材、または、日常生活で意欲的に取り組めた工夫を活用 例:教材の仕組み、学習環境の工夫など
教材について	☑子どもに身につけてほしい知識及び技能、生活に生かせるような思考力・判断力・表現力をその教材で習得・育成できる? ☑必要性を感じ、課題をもてる? ☑主体的・対話的な活動は取り入れられる? ☑絵、写真、ビデオなど具体物を使用するなどの工夫ができる? ☐子どもが自分でルールを決めたり、役割を設定したりできる? ☑子どもにとっての強化子はある?
題材計画について	☑つまずきの原因分析から、できること・わかることが段階化されている? ☐子どもの学び取りの傾向から課題の引き受けや実施方法が検討・工夫されている? ☑全体の計画と個別の計画がわかるようになっている?
【一次】	☑仕組みを理解したり、楽しさを感じたりできる? ☑活動の意味やよさが十分理解できる?
【二次】	☑二次は確実な知識の習得 ☑子どもに到達してほしい頭の使い方がぶれていない? ☑負荷がかかりすぎていない? ☑支援が減る、問題の難易度が高まるなどしている? ☑友だちと一緒に学ぶ場が計画されている? ☑自分で考えた仕方や解決方法を生かせる仕組み?
【三次】	☑できるようになったことを生かす場は設定されている?
学習環境について	☑活動の流れや量、しやすさを考えた道具材料の配置? ☐不要な刺激は排除している? ☑仕方や手順がわかりやすく伝えられる? ☑成果が見てわかる? ☑自分で仕方や手順を確かめられる? ☑教具は、思考(わかる)を補助できる? ☑教具は一人で使えるようになる? ☑期待感(してみたい!)をもてる?
学習活動について	☑導入は課題理解、興味関心 ☑展開は知識習得のため、教具の理解や操作が適切? ☑発展は定着、応用、工夫できる? ☑終末は自己評価と次時への意欲 ☑目的や意味、よさがわかる? ☑何をどのくらいどのようにするかわかる? ☑課題は段階的に高まっている? ☑間違いに気づいてやり直せる仕組み? ☑学習の結果と目的がつながって達成感がもてる?
評価について	☑めあてと指導はつながってる? ☑文章・文法はわかりやすい?伝わる? ☑不適切な表現はない?(難しい、できないなど)